

題名 「ペドロ・アルモドバル作品の女性表象とスペイン・地中海文化性」

ペドロ・アルモドバルは、スペインが民主主義を取り戻し EU への参加を目指していた 80 年代半ばに映画監督としてデビューし、独自の言語センスと色彩感覚で、セクシャリティ、女性のアイデンティティ、麻薬、DV、貧困の現実といった当時として映像にするには極めてラディカルであると考えられていたテーマをダイレクトに表象してきた映画作家である。大陸欧州ではアルモドバルの名は既に周知されていたが、2000 年のアカデミー賞最優秀外国語映画賞受賞によって漸く北米や日本にアルモドバルの存在が知られるようになった。

アカデミー賞受賞作品「All about my mother」以降、アルモドバルの作品はアングロサクソン圏の映画ジェンダー研究・フェミニズム研究で取り上げられていった。しかし、どれもステレオタイプの北米的ジェンダー理論を元に考察され、やがて「反フェミニズム」のレッテルを貼られる結果となるが、いずれの考察も、スペインの地域文化性や社会的文化的背景を無視したものであり、真にアルモドバルの女性表象を分析できているのか疑わしい。

そこで本発表では、地中海文化圏の古代神話に登場する女権社会の存在や、スペイン宗教性の特徴の一つである「聖母マリア崇拝」といったスペインの地域文化性に大きく影響を与えた精神性・宗教性を踏まえながら、アルモドバルの主要作品の女性表象を読み解き、アルモドバルが描く女性登場人物の表象は、スペイン独自の地域文化性を表すものであることを明らかにしていく。

本研究は、平成二十九年度科学研究費助成費(奨励研究：課題番号 17H0012)を受けたものです。